



会 長 挨 拶

南山会会長

成 田 信 浩

日頃より同窓会「南山会」の活動に深いご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。私は、2025年7月より南山会の会長を拝命いたしました成田信浩でございます。本会の目的である会員相互の連携と親睦を図るために、引き続き交流会や寄附など種々の活動と事業を遂行して参ります。

今後の活動では、卒業生だけでなく、在校生にも実りあるよう、双方に裨益する体制を目指すべきだと考えます。私が兼任する放射線技術科学専攻同窓会「旭会」では、学会派遣助成などで学生を支援しており、先日参加した卒業研究発表会では、派遣助成を受けた学生全員が感謝の言葉を述べていました。この事業が彼らの研究への熱意を支え、非常に有用であると実感するとともに同窓会の重要な使命の一つであると強く感じた次第です。

さて、現在の医療現場は、少子高齢化やAI・DX技術の導入といった社会変革の波を受け、想像以上のスピードで変化しています。このような激動の時代においては、高度な専門性を磨き続けることはもちろん、他職種と柔軟に連携し、新たな知見を取り入れる力が不可欠です。

その観点から、南山会は新潟大学「全学同窓会」との連携強化を推進しております。先日参加した

交流会では、工学、理学、教育学部など、医療とは異なる分野で活躍する多岐にわたる卒業生との交流を持つことができました。異分野のプロフェッショナルとの対話は、私たちの専門領域に新たな視点と刺激を与えてくれます。今後も全学ネットワークを積極的に活用し、専門の枠を超えた「広がり」のある交流の場を、会員の皆様に提供して参ります。

一方で、私自身も先日還暦を迎える同期会を開催し、一瞬にして学生時代に戻るような感覚を覚えました。同じ苦楽を共にした同期との時間は、言葉にしなくても通じ合える阿吽の呼吸があり、全学同窓会のような「広がり」とは対照的な、心の底からリラックスできる「深さ」と「癒やし」があります。この温かい繋がりこそが、多忙な日常を送る私たちにとって、明日への活力となる心の拠り所です。会員の皆様も、ぜひ同期との絆を深める機会を大切にしていきたいと思っております。

結びになりますが、南山会が今後も皆様の活動を支え、専門性と心を豊かにする場となるよう、役員一同、一丸となって取り組んでまいります。引き続き皆様の積極的なご参加と、変わらぬご理解・ご支援をお願い申し上げます。

轍迹（てつせき）とは…

車のわだちの跡、馬の足跡、物事のあとかたの意で多くの先輩たちが通った跡、母校の歩み、のような意味合いを込めています。



ご挨拶

新潟大学医学部保健学科長
新潟大学大学院保健学研究科長
住吉 智子

寒さが日ごとに増してまいりましたが、後援会の皆さまにおかれましては、ますますご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。平素より、保健学科ならびに大学院保健学研究科の教育・研究活動に対しまして、格別のご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

皆さまの温かいご協力により、国家試験対策や就職活動支援はもとより、抗体検査の実施や健康支援体制の充実、卒業祝賀会の開催など、学生生活の重要な節目を支えるさまざまな場面で、後援会の皆さまのご尽力を強く感じております。また、国際交流や地域連携の推進においても、皆さまの応援が大きな原動力となっており、改めて深く感謝申し上げます。

さて、現代社会が直面する課題はますます複雑化しており、もはや特定分野の専門知識だけでは十分に対応できない時代を迎えています。医療の分野においても、人口動態の変化に加え、医療技術の高度化・多様化、さらにはAIやデジタル技術の進展など、医療系専門職の養成を担う教育現場は大きな転換期にあります。こうした変化を的確に捉え、より柔軟で学際的な教育体制を整備するため、新潟大学では大学院教育の再構築を進めてまいりました。その成果として、このたび文部科学省より設置認可を受け、令和8年4月より新たに「総合学術研究科」と「医歯保健学研究科」が開設される予定です。これに伴い、現在の保健学研究科は「医歯保健学研究科」として新たな歩みを

始めることとなります。

新設される医歯保健学研究科では、医学・歯学・保健学の垣根を越えて学際的思考を涵養しつつ、各専門分野の深化を図ることを目的としていきます。本学の幅広い学術資源を活用し、専門知識と俯瞰的視野の双方を備えた人材の育成をめざします。また、多職種連携、地域医療、医療と理工学の融合、国際的視点の涵養などを目的とした新たな教育プログラムを展開し、学際的知識を統合して医療分野における新たな価値を創出する人材の育成に取り組みます。これは、次世代型の大学院教育モデルとして全国的にも注目されるものとなると確信いたします。

さらに地域医療の観点からは、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指し、「未来医療人材」の育成を重点的に進めてまいります。今後、オンライン診療や健康データのデジタル化が一層進展することが予想される中で、こうした変化に的確に対応し、自律的に行動できる医療専門職の育成が求められています。保健学科ならびに新研究科では、次世代の医療技術や科学的知見を駆使し、地域住民のQOL向上に寄与する医療人を育成すべく、教職員一同、全力で取り組んでまいります。

結びに、後援会の皆さまの今後ますますのご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げますとともに、引き続きあたたかいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

特集 I：思い出(先生編)

猛威を振るったコロナ禍も収束しつつあり、大学の先生も落ち着きはじめているのではないかと思います。そこで今回は先生が経験した思い出の企画をいたしました。

楽しい思い出として

看護学専攻 専攻主任 中村 勝

たあい無い話である。そのころ私は海外にいて周囲の者が皆そうであったように私もせきたてられるように生きていた。Oさんもそんな一人で卒業を待たず現地で活動していた。実務経験4、5年の専門家気取りからは蔑まれることもあったが、聡明な額は美しく、いつも涼やかな風が吹いていた。ある日、Oさんに誘われて仲間2人と現地の若い女性4人とで海辺に遊び、波を蹴って写真を撮ったりした。村落開発活動の一環なのだろうと思った。その帰り、夕日に染まるインド洋を指さして「まっすぐ行けば日本だよ」と遠い目をして言った。あるとき「ここではうまくいかないからエリアを移したい」と私を誘った。理由が見つからない私は曖昧な返事を繰り返すしかなかった。借家に訪ねて来ることもあった。ベルに驚いてカーテン越しに見下ろすと門外にOさんが立っていた。きまよっていると2、3度みじかくベルを鳴らし、また炎天下に戻って行った。やがて私は帰国を決め3、4日観光地を巡ったあと空港へ向かうことにした。わずかな見送りの中にOさんもいた。空港までの間、補助席にいる私の肩にOさんはずっと手を置いていた。帰国後、大学院生となっていたある日、一通の封筒が届いた。まが

まがしい思いで封を切ると黒く縁取られたハガキが入っていてOさんの訃報を伝えていた。一瞬、頭の中を白い風がとおりに過ぎた。インドで亡くなったとある。何をしていたのだろう。そんな思いが渦巻いた。置きざらしの段ボール箱から3葉の写真を取り出してじっと見返した。蒼い海を背に5、6人の若者がめいめいに笑っている。Oさんの笑顔も確かにそこにある。今も肩に残るかすかな感触はときに私を慰め、勇気づけた。Oさん、あなたにはどんな夢がありましたか。声をかけても戻らない儚く哀しい思い出の一片である、とそう締めくくろうとしてテーマから逸れていることに気づいた。暫く考えて「として」と書き添えた。



味がつなぐ思い出

放射線技術科学専攻 近藤達也

楽しい思い出を振り返ってみますと、食に関わる場面が思い浮かびます。子どもの頃は、親が作ってくれたご飯を毎日のように食べていました。その中に、味噌かつや味噌おでん、きしめんなど、地元でよく食べられている料理も普通に含まれていて、自分では特に珍しいとも思っていませんでした。新潟に初めて一人で来たときに食べたへぎそばが、新潟らしい食べ物との最初の出会いです。少し緊張しながら一人で店に入り、新潟名物と書かれた文字を見てへぎそばを頼んだことを覚えています。初めてのそばを食べながら、地元を離れて遠くに来たのだと静かに感じていました。

新潟大学に進学してからは、新潟らしい物を食べるが増えました。その中でも印象に残っているのが、タレカツを初めて食べた時のことです。それまでよく食べていた味噌かつとは違う味ですが、タレカツもとてもおいしいと感じました。やがて、部活の練習後にはラーメンを食べに行くのが恒例になり、そこから新潟県内の店をいろいろ回るようになりました。ある日には、ラーメンの1日にすると決めて、県内のさまざまなラーメン店を何軒も食べてまわった思い出もあります。

親が用意してくれた食卓とは別に、自分で選んだ新潟の味が少しずつ増えていきました。

新潟では、白山神社に行くと、ついぼっぽ焼きを買ってしまいます。花見に行ったときも、花火を見に行ったときも、初詣で神社に立ち寄ったときも、いつも食べています。ぼっぽ焼きは、新潟で過ごしてきた楽しい思い出の味になっています。最近は、休みの日の朝にパンを食べに行くことも増えました。パン屋の焼きたてのパンをゆっくり味わうことが、ここ数年のささやかな楽しみです。地元のパン屋で過ごす時間は、一日の始まりを落ち着いて迎えられる、大事なひとときだと感じています。

子どもの頃によく食べていたものも、新潟大学に通いながら食べていたものも、最近よく食べているものも、どれも自分の中で楽しい思い出になっています。それぞれの思い出には、当時の雰囲気や一緒にいた人の顔、そのときの自分の気持ちが重なってよみがえってきます。そうした積み重ねが、自分なりの楽しい時間として心に残っています。これからも、そのときどきの食とともに、思い出を重ねていければと思います。

●住所変更について

会報や催事案内などを送るために登録されている住所が変更された場合や改姓された場合は、登録変更手続きをして下さい。

会報発送に際しては郵便の転送サービスが受けられませんので、必ず変更手続きをお願いします。

登録変更は、南山会ホームページ(右QRコード)からの手続き又は名簿管理を委託している(株)DI Palette への手続きをお願いします。

QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

* (株)DI Palette に直接連絡する場合

連絡先：(株)DI Palette 南山会名簿担当者 宛

TEL：025-283-3785 FAX：025-282-1776

連絡内容：氏名、所属分会、卒年、会員番号(封筒宛名シールに印刷されています)、変更内容。

※(株)DI Palette は、個人情報保護法の施行に対応するため、財団法人日本情報処理開発協会のプライバシーマーク取得及びISMS認証基準に適合。個人情報保護体制を確立しています。



私の「楽しい思い出」

検査技術科学専攻 専攻主任 佐藤 英世

大学及び大学院で10年間、さらにポスドクを経て大学教員として30年余りを振り返ると、自分の人生の大半を大学という場と共に過ごしてきたこととなります。今回いただいたテーマである「楽しい思い出」と聞かれると、やはり大学での思い出を語らずにはられません。学生時代には、同級生たちと将来の夢を語りながらまじめに勉強した記憶はありますが、楽しい思い出の大半は、部活の先輩、同輩、後輩たちの付き合いの中で生まれています。中でも、当時よくやっていた麻雀は楽しい思い出の宝庫です。現在でもその時の仲間と集まって麻雀を楽しむ機会が続いています。

大学教員として研究室を主宰するようになってからは、学部や大学院の指導学生の皆さんとの交流が、新たな「楽しい思い出」を積み重ねてくれました。研究室で真剣に実験に向き合う雰囲気とは少し違った、研究室の飲み会での率直な会話から、学生さんの成長や迷い、そして希望を知ることができ、その時間が教員としての楽しさを実感させてくれました。また、卒業・修了後に近況を知ら

せに訪れてくれる姿には大きな喜びを感じます。

さらに、研究を通じて国内外の共同研究者と語り合う機会も、自身の研究生活を豊かにしてくれました。特に海外の共同研究者たちとそれぞれの文化や価値観に触れながら互いの道のりを分かち合う時間は、国境を越えてつながる楽しさを感じずにはられません。国内外の共同研究者との共同研究は、現在も続いており、学会等で会うとお互いの研究室の学生さんも一緒になって楽しい語らいの時間を過ごしています。

そして、この度、卒業・修了される皆さんへ。これから歩む道は決して平坦ではないかもしれませんが。特にAIの著しい発達により、これまでに想像しえなかった新しい環境が広がっていくことでしょう。しかし、学生時代に育まれた仲間との絆、人と語り合い学ぶ姿勢は、皆さんを必ず支えてくれるはずです。皆さん自身が、これから新たな「楽しい思い出」を紡いでいくことを心より願っています。



特集Ⅱ：楽しい思い出

猛威を振るったコロナ禍も収束しつつあり、医療従事者である皆様も落ち着きはじめているのではないかと思います。そこで今回は会員の皆様の楽しい思い出の企画をいたしました。

初めての新大祭で学生時代を思い出す

遊びとおもちゃの専門店 krtek select toys 大西千佳

私は大学卒業後、新潟大学医歯学総合病院で8年間看護師として勤務し、その後養護教諭、保健師を経験したのち、二人の子を出産。子育て中にドイツの木のおもちゃに出会ったことがきっかけで、おもちゃと子どもの育ちについて関心を持ち、現在は新潟市中央区にある“遊びとおもちゃの専門店 krtek select toys”というおもちゃ店のスタッフとして働いています。

2025年10月に五十嵐キャンパスで新大祭が開催されるという情報を目にし、家族で行ってみることにしました。在学中は一度も新大祭に行ったことがなかったので、私にとって初めての新大祭でした。キャンパスを訪れ西門から教育学部棟に向かって歩いていると、当時とほとんど変わらない景色に、大学生活にワクワクしていた気持ちを思い出し、とても懐かしい気持ちになりました。学祭ではスタンプラリーが行われており、主に教育学部棟のサークルを回ることにしたのですが、大学時代、医学部の部活に所属していた私は、週

約半分を講義終了後旭町キャンパスの方に通っていたためか、これほどたくさんのサークルがあることは知らず驚きました。どのサークルも興味深く、どこから回ろうかと迷ってしまうほどでした。娘は絵手紙サークルで絵手紙を作成したり、手話サークルで手話クイズに答えたりと、親子で初めて体験することも多く楽しい時間を過ごしました。構内を歩くと、学生時代に課題に取り組む際に訪れていた図書館が、リニューアルしていることに驚きました。1年次に大変お世話になっていた第一食堂のメニューの価格は、当時とほとんど変わらなかったと思います。第一食堂からの景色を眺めながら、当時の自分や友人たちとのんびりキャンパスを歩いたことなどを思い出し、学ぶことや興味のあることに夢中になって取り組める時間を持てたこと、大学生活を通してたくさんの人と出会えたことに改めて感謝の気持ちでいっぱいになり、再びキャンパスを訪れ楽しい時間を過ごせたことも、また一つ思い出になりました。



変わりゆく日常で見つけた楽しみ

滋賀医科大学医学部附属病院 放射線部 田中 碧

大学生活から現在までを振り返ると、移り行くコロナ情勢の中、それぞれの時期で印象に残った思い出があります。

大学進学を機に地元を離れて新潟で初めて一人暮らしを始めました。コロナの影響で授業が非対面であり、友人を作る機会にも恵まれず、一人での生活に寂しさを抱えており、憧れていた大学生活には及びませんでした。そんな中でも、高校時代の友人と通話しながらドラマを観たり、料理や推し活をしたりすることが楽しみであり、励みとなっていました。

二年生になるとコロナが落ち着き、外出をしての活動がしやすくなりました。

ユニバーサル・スタジオ・ジャパンに年パスで何度も訪れたことや、ライブや舞台、台湾旅行など、非日常的な楽しい経験が多くできました。後期からは対面授業も始まり、雪の日に友人と雪だるまを作ったのも印象深い思い出です。

三年生の春にはコロナが第五類へ移行し、対面

授業が多くなりました。昼休みにトランプをしたり、課題を一緒に進めたりと、穏やかで居心地の良い時間を友人と過ごすことがやっとできました。華やかさはないものの、温かい空間でした。

四年生になると実習や就職活動、卒業研究、国家試験勉強で慌ただしい日々が続きました。卒研の時期は研究室に籠り、研究に追われる日々の中で、仲間とモルックをして息抜きをしたのも良い思い出です。卒研発表後は、研究室の仲間と初詣に行ったり雪だるまを作ったりして気分転換をしつつ、国試勉強に励みました。直前まで点数が伸びず、先生にも心配をかけたのですが、無事に合格できて本当に良かったです。振り返れば、四年生の一年間が最も“大学生らしい”時間だったと思います。

社会人となった今はピラティスや映画鑑賞など新しい趣味を見つけ、休日を楽しんでいます。今後は自動車教習所に通い、車の免許を取得し、自分の運転で旅行に行くことが楽しみです。



USJ



台湾旅行



初めての雪だるま作り



初詣



息抜きモルック

学生時代の楽しい思い出

市立秋田総合病院 佐藤 陶子

私は2016年に新潟大学に入学しました。秋田県出身の私にとって、新潟という土地も一人暮らしも全てが初めての経験でしたが、気候は似ており、お店は秋田よりも多くかつ都会へのアクセスも良く、今でも新潟を第二の故郷と思えるくらい好きになりました。

大学1年生の頃は五十嵐キャンパスでの授業が多く教養科目を学びましたが、工学部の学食にのみある野菜炒め定食や、ベーカリーショップでお昼ご飯を食べたのが印象的です。2年生以降の旭町キャンパスでは学食が無かったため、大学生ならではの雰囲気を楽しめた場として特に思い出に残っています。

2年生以降は臨床検査技師になるための専門的な授業が増え、グループでの実習が増える中でより専攻内の友人との仲が深まったように思います。今回この記事を依頼してくれた編集担当の友人とは、よく一緒にお酒を飲んだり、パンケーキを食べに行ったり、2人で一緒にカラオケに行ってお互い一人カラオケをして遊びました。一人カラオケのエピソードを別の友人に話すと、「仲良いの？変だよ」と、笑われましたが楽しかった思い出の一つです。

大学4年生になると卒業研究が始まり、私が配属された病理研究室では担当の教授と皆でよくお酒を飲みに行きました。ひたすらビールを飲み続ける先生は生徒よりも元気で、社会人6年目に

なった今でも年2回程新潟に行く際には、必ず先生も一緒に飲んでくださる事を非常に嬉しく思っています。

現在は秋田市内の総合病院の病理診断科で細胞検査士として働いています。新型コロナウイルス感染拡大により卒業式は中止となり、卒業旅行にも行けなかったものの、今でも連絡を取って相談に乗ってくれたり、遊んでくれる友人がいる事が励みになっています。周りの人への感謝を忘れず、また次新潟に行けるのを楽しみに日々精進したいと思います。



新潟大学で看護を学ぶということ

看護学専攻4年 横山侑美

高校3年生の頃は看護の道に進むとは考えていませんでした。医師になろうと思っていました。1年浪人をしましたが学力が足りず、看護師になることを決めました。それは私の母が看護師だったからです。しかし、浪人時代の私は母の仕事を快く思っていませんでした。それが原因で母と喧嘩もしました。そんな気持ちを抱えながらも看護の道に進み、2年生になると演習や実習で看護の核心に触れるようになりました。その時、やっと自分が看護師になりたかったのだと気がついたのです。私が本当にやりたかったことは、患者さんのお気持ちに寄り添うことで、患者さんが病と向き合い、自分らしく生きていけるように援助することでした。看護を勉強しているといつも福島で暮らす母の顔を思い出します。

そう思えるようになったのは、看護の先生方と同級生のおかげです。先生方は私たち一人ひとりと向き合い、励ましの言葉をかけ続けてくださいました。エネルギーに溢れ、魅力的な方ばかりで

す。同級生も刺激的で実直な人たちに恵まれました。私たちの学年からカリキュラムが新しくなり、大変なこともあったと思います。しかし、新しい試みにも「まずはやってみよう」と、たくましく乗り越える力が私たちのクラスにはあったと思います。そのような先生・同級生と共に看護を学ぶことができて幸せです。ありがとうございました。

数ある看護系大学の中で新潟大学を選んだのには理由があります。私は2011年の原発事故発生後、2年間新潟市西区で暮らしていました。その時に触れた新潟の人たちの温かさを憶えていて、また新潟に住みたいと思っていました。4年生になると災害時の看護について学びます。講義の中で、震災後に福島から避難してきた私たちの健康支援を看護の先生・先輩方がされていたと知りました。改めて新潟への感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。卒業後は新潟県内の医療機関で看護師として働きます。これから少しずつ新潟と母に恩返しをしたいと思っています。



挑戦と成長に満ちた4年間

放射線技術科学専攻4年 鳥井雄翔

この寄稿を書く機会を頂き、改めて4年間を振り返るきっかけとなったことに心から感謝しています。大学生活、初めての一人暮らし、アルバイト、旅行など本当に多くの経験を通して刺激にあふれた4年間でした。

私たちが入学した当時は、コロナによる制限が徐々に緩和され始めた時期で、1年次には週3日の対面授業がおこなわれ、2年次にはマスク着用も個人の判断に委ねられるようになりました。高校時代には修学旅行の中止や文化祭の規模縮小など、多くの我慢を強いられてきたからこそ、「普通の大学生活」を過ごせることのありがたさを強く感じたのを覚えています。

大学での4年間を振り返ると、それぞれの学年ごとにまったく違った景色がありました。

憧れの大学生活が始まり、新しい環境に慣れることに必死になりながらも、毎日がワクワクの連続だった1年生。

遊び方も覚え、旅行も沢山して、テスト期間に必死で詰め込んだ2年生。

実習科目が増えて、実験レポートやパワーポイント作成に追われた3年生。

充実した病院実習を終え、卒業研究と国試勉強の板挟みの現在4年生。

こうした日々の学びに加えて、塾講師と接客業のアルバイト、そして趣味である旅行やお城巡りも、大学生活を彩ってくれました。初めての一人旅や海外旅行では、思いがけないハプニングも含め、数えきれないほどの刺激と成長をもらったと感じています。

最後になりますが、指導してくださった先生方、そして共に学び支え合ってきた友人たち、新潟で出会った全ての方に心から感謝しています。大学生活は“人生の夏休み”と呼ばれますが、その言葉のとおり、多くの挑戦と成長に満ちた最高の時間でした。



4年間の学びと思い出

検査技術科学専攻4年 鈴木知里

私は県外からの進学で、初めての新潟での生活でした。新しい環境で不安もありましたが、多くの学びと思い出に満ちた4年間だったように感じます。

私は検査技師を目指して入学しました。学年が上がるにつれて専門性が高くなり、実習も増えて、検査技師になるために必要な知識を学んでいるという実感が強くなりました。4年生の臨地実習では、現場で働く検査技師の方々の高度な知識と技術に触れ、今の自分はまだまだ知識が浅く、学んだことを実践に結びつけるのに精一杯で、1年後、本当に病院で働いていけるのか、先輩技師のようになれるのか不安になりました。そんな時、患者さんから「頑張っってね」と温かい言葉をいただき、自覚と責任感を持ち、学び続ける大切さを強く意識するようになりました。

学業だけでなく、サークル活動でも充実した時間を過ごしました。高校まで続けてきた書道を大学でも続けたいと思い、書道同好会に所属しました。大学祭や展覧会で作品を展示する機会があり、他の部員の作品から刺激を得て自分の表現の幅を広げる楽しさを味わいました。さらに、サークル活動の一環として、神社で御朱印を書くという珍しいアルバイトにも参加でき、貴重な体験になりました。

こうした経験や仲間との交流は、私を大きく成

長させてくれました。ご指導いただいた先生方、同じ志をもって共に勉強に励んだ検査専攻の仲間
に心から感謝しています。卒業後は地元の病院で検査技師として働きます。日々、知識と技術を磨いていくことは患者さんの命と健康を支えることにつながると思うので、積極的に学ぶ姿勢を忘れず、一人前の検査技師になれるよう頑張ります。



新潟大学医学部 保健学科同窓会 「南山会」第42回代議員会報告

「書面による会議」の評決とした。

議 事

第1号議案：令和6年度 活動報告

1. 総括

令和6年度事業及び会務の運営は、第41回代議員会において承認された事業計画に基づき執行された。代議員各位のご理解と担当役員の努力、協力により滞りなく執行された。

2. 概要

(1) 会報「轍迹」(第40号)の発行

会報「轍迹」第40号は、令和7年3月に発行した。
印刷総数は7,700部、配布詳細は以下の通りである。

	発行数	返送数
ときわ会	3,628	140
旭会	1,496	28
砂山	1,585	65
教職員・卒業生・在学生・残数	991	-
総数	7,700	233

(令和7年5月30日現在)

(2) 同窓会「南山会」のアピール活動

- ①令和6年1月 会費未納者(卒業年度生、新編入生、新大学院生)に会費納入のお願いを送付した。
- ②南山会のホームページを更新した。最新の会報を掲示した。また、永年会費の徴収やメールアドレスの登録がHPからできるようになった。
- ③令和7年3月24日(月) 新潟大学卒業式が朱鷺メッセで行われ小林会長が出席した。
- ④令和7年4月3日(木) 新潟大学入学式が朱鷺メッセで行われ小林会長が出席した。

(4) 全学同窓会への参加・協力

全学同窓会・交流会は新潟大学創立75周年記念事業として式典をANAクラウンプラザホテル新潟にて開催し、懇親会も盛大に行われた。その席には、南山会役員10名が参加をした。

全学同窓会広報「雪華」及び大学カード入会案内・賛助会費依頼を南山会会報「轍迹」送付時に同封した。

(5) 母校の教育催事等への協力・援助

○保健学科に例年通り寄附をした。

第2号議案：令和6年度 決算報告

会計より令和6年4月1日から令和7年3月31日までの収支決算について報告された。

第3号議案：監査報告

監事五十嵐実花子、外山貴子が報告を行った。書面評決の結果、全会一致で可決決定された。

第4号議案：令和7年度 事業計画案

会長より、令和7年度事業計画について以下の説明があった。

- ① 会報「轍迹」第41号の発行
- ② 同窓会のアピール活動
- ③ 全学同窓会交流会への参加・協力
- ④ 母校の教育催事等への協力・援助
- ⑤ 保健学科学友会活動に対する支援
- ⑥ 保健学科学生(準会員)との交流会
- ⑦ その他

1) 南山会事務局のWGを設置して現在継続中。

会費徴収方法やHPの更新を行ったため、今後の運用について検討する。

第5号議案：令和7年度 予算案

予算案はおおむね前年度に合わせて作成した。

書面評決により第1号議案～第5号議案が承認された。

南山会会則改正が審議され、承認された。

役員改選選挙があり、全員承認された。

(3) 保健学科学生(準会員)との交流会

令和6年度開催

	実施日	会場	参加人数
ときわ会 「先輩と語る就職のあれこれ」	令和6年7月23日	医療人育成センター セミナー室	学生16名 卒業生8名 (看護師4名、助産師2名、保健師2名) 役員8名
旭会 「第1回施設説明会の開催」	令和6年6月7日	新潟大学保健学科 D41講義室	1～4年、学生数十名 講演施設講師9名、旭会役員3名
「第2回施設説明会及び研究集会派遣報告会の開催」	令和7年2月10日	WEBライブ配信のみ	1～3年、学生数十名 講演施設講師4名、 研究集会派遣報告1名、旭会役員2名
砂山 「先輩と話をする会」	令和6年8月24日教育学会時		

令和6年度決算報告

自 令和6年4月1日
至 令和7年3月31日

(単位：円)

収入の部

項目	予算	決算	決算-予算	備考
前年度繰越金	5,606,299	5,606,299	0	
会費収入(当期)	3,780,000	3,780,000	0	
寄付収入	0	0	0	
預金利息・他	23	234	211	
会費収入(次期)	0	391,430	391,430	年度末に納入 次年度会費+手数料110円会員負担分
合計	9,386,322	9,777,963	391,641	

支出の部

項目	予算	決算	予算-決算	備考
名簿管理	250,000	38,500	211,500	DI Palette、初期10万円+年間15万円
会報印刷	533,610	533,610	0	印刷代
会報送付	1,690,768	1,690,768	0	封筒代・宛名シール・封入・送料
ホームページ	100,000	434,676	△ 334,676	ドメイン代、HP管理費、HP更新費
新入生	50,000	39,930	10,070	入会案内・個人情報取扱・会則
事業・補助・ときわ会	840,000	840,000	0	交流会補助費20万円、分会事業費64万円
事業・補助・旭会	400,000	400,000	0	交流会補助費10万円、分会事業費30万円
事業・補助・砂山	420,000	420,000	0	交流会補助費10万円、分会事業費32万円
全学同窓会負担金	400,000	397,815	2,185	
全学同窓会交流会	15,000	55,000	△ 40,000	新潟大学創立75周年記念式典・祝賀会参加費
寄付(保健学科)	500,000	500,000	0	
寄付(他)	0	0	0	
会議・人件費	10,000	18,400	△ 8,400	会議費・人件費
事務局運営費	600,000	0	0	
旅費	50,000	0	50,000	出張費
手数料(振込・他)	3,480	4,480	△ 1,000	振込手数料など
振替払出明細表	3,850	3,850	0	振替受払通知票1通110円
決済代行	60,000	16,775	43,225	会費ペイによる決済代行
会費返金	0	0	0	
予備費	3,459,614	0	3,459,614	
小計	9,386,322	5,393,804	3,392,518	

当期収支決算 = 当期収入 - 当期支出
 △ 1,613,570 = 3,780,234 - 5,393,804
 次年度繰越金 = 前年度繰越金 + 当期収支決算 + 次年度会費支払
 4,384,159 = 5,606,299 + △ 1,613,570 + 391,430

令和7年度予算

自 令和7年4月1日
至 令和8年3月31日

(単位：円)

収入の部

項目	今年度予算	執行済	執行済-予算	備考
前年度繰越金	4,384,159	4,384,159	0	昨年度末に納入会費39万円+手数料会員負担分
会費収入(当期)	2,197,150	2,197,150	0	
寄付収入	0	0	0	
預金利息・他	2,774	2,774	0	預金利息
合計	6,584,083	6,584,083	0	

支出の部

項目	今年度予算	執行済	予算-執行済	備考
名簿管理	250,000	165,000	85,000	DI Palette、改修10万円+年間15万円
会報印刷	525,140	525,140	0	会報40号 7,700部×62円
会報送付	1,226,692	1,226,692	0	封筒代・宛名シール・封入・送料
ホームページ	120,000	0	120,000	ドメイン代・HP管理費
新入生	50,000	0	50,000	入会案内
事業・補助・ときわ会	580,000	580,000	0	交流会補助費20万円、分会事業費38万円
事業・補助・旭会	340,000	340,000	0	交流会補助費10万円、分会事業費24万円
事業・補助・砂山	340,000	340,000	0	交流会補助費10万円、分会事業費24万円
全学同窓会負担金	400,000	0	400,000	全学同窓会負担金
全学同窓会交流会	55,000	0	55,000	全学同窓会交流会参加費
寄付(保健学科)	500,000	0	500,000	寄附(保健学科)
寄付(他)	0	0	0	
会議・事務諸経費	150,000	0	150,000	会議・事務諸経費
旅費	50,000	0	50,000	出張費
手数料(振込・他)	1,840	1,840	0	振込手数料など
振替払出明細表	990	990	0	振替受払通知票1通110円
決済代行	100,000	82,885	17,115	会費ペイによる決済代行
予備費	1,894,421	0	1,894,421	
小計	6,584,083	3,262,547	3,321,536	

当期収支予算 = 当期収入予算 - 当期支出予算
 △ 2,489,738 = 2,199,924 - 4,689,662
 次年度繰越金 = 前年度繰越金 + 当期収支予算
 1,894,421 = 4,384,159 + △ 2,489,738

分会からのお知らせ

皆様からの意見、要望を受け付けています。分会またはホームページまで連絡をお願いします。

「ときわ会」

○先輩と語る会

日時：令和7年6月25日(水) 18:00~19:00

場所：医療人育成センター セミナー室1.2

参加者：

新潟大学医学部保健学科看護学専攻 学生19名

新潟大学医歯学総合病院 看護師4名 助産師2名 保健師2名

上記の通り開催し 学生19名 先輩8名でした。

※総会は3年に1回の開催でR6年に実施しています。次回の開催はR9年の予定です。

「砂山」

○7月に「砂山」代議員へ南山会代議員会の審議をメール・郵送にて依頼して、信任を頂きました。有難うございました。

○12月に卒業予定者への「砂山」入会案内を実施しました。

○「砂山」役員

会 長	小林 進	自宅 025-285-0796
副 会 長	阿部 康彦	自宅 0254-27-1168
書 記	清野 俊秀	自宅 025-261-2064
会 計	菅井 綾里	新潟大学医歯学総合病院生理検査
会計監査	外山 貴子	自宅 025-263-4968

「旭会」

○活動内容

- 令和7年度第1回役員会をメール会議にて開催(6月)
議事：令和6年度事業報告、令和6年度決算報告、令和7年度予算案、令和7年度事業計画案
 - 令和7年度第1回代議員総会をメール会議にて開催(7月)
議事：令和6年度事業報告、令和6年度決算報告、令和7年度予算案、令和7年度事業計画案
 - 臨床実習における感染対策として、個人防護具(マスク、ゴーグル、消毒剤)を寄付した。
 - 令和7年5月23日に第1回施設説明会及び交流懇親会を開催し、多くの学生が参加した。
 - 保健学科放射線技術科学専攻に対し20万円の寄付を行った。
 - 旭会研究会派遣補助金給付として、申請のあった6名の学生へ助成を行った。
 - 令和7年度卒業生へ卒業記念品を贈呈した。
 - 「旭会」役員
- | | | |
|-------|-------|---------------|
| 会 長 | 成田 信浩 | (新潟市民病院) |
| 副 会 長 | 近藤 達也 | (新潟大学) |
| 副 会 長 | 能登 義幸 | (新潟大学医歯学総合病院) |
| 幹 事 長 | 神田 英司 | (新潟市民病院) |
| 会 計 | 山田 由美 | (済生会新潟病院) |
| 会計監査 | 小林 功 | (済生会新潟病院) |
| | 上田 弘之 | (新潟ウェルネス) |

全学同窓会への支援のお願い(賛助会費と協賛個人会費)

全学同窓会は、新潟大学への支援、および新潟大学への支援を通じて社会への貢献を目的に活動しています。新潟大学卒業生や交友会員からの場合には賛助会費(年一口2,000円。何口でも)、個人(市民)からの場合には協賛個人会費(年3,000円)で、全学同窓会への支援を受け付けています。郵便振込「口座番号00550-8-59079新潟大学全学同窓会」宛のお振込をお願いします。新潟大学カードで自動引き落としを選択していただいても結構です。支援者には、全学同窓会からの各種ご案内や特典を用意しております。

南山会 HP
保健学科: <http://www.nanzankai.org/>
『南山会 新潟大学』で検索して下さい。



「南山会」役員・監事名簿(令和7年度)

役職	氏名	所属
会 長	成田 信浩	新潟市民病院
副会長	能登 義幸	新潟大学医歯学総合病院
	亀倉 友宏	新大病院 移植医療支援センター
	小林 進	自宅
幹事長	近藤 達也	新潟大学医学部保健学科放射線技術科学専攻
総務部	竹中 明美	新大病院 手術部
	鈴木 秀幸	県立がんセンター新潟病院
会計部	横野 一美	新大病院 西4.5階病棟
	須貝 美佳	新潟大学医学部保健学科検査技術科学専攻
編集部	布施 真至	新潟大学医歯学総合病院
	近 文香	新大病院 東11階病棟
	野口 芽衣	新潟市民病院
監 事	小林 功	済生会新潟病院
	渡辺ひとみ	新大病院 救命センター1階病棟

編 集 後 記

誰もが認めるここ一年の流行りものといえば、映画「国宝」です。看護師という職業柄、鑑賞終わりにまず思ったのは、映画の美しさでも歌舞伎界の奥深さでもなく「糖尿病は怖い」でした。家族歴のある私がかかりつけ受診ついでにHbA1cを調べてもらい、無事安心を得ることができました。なぜ映画を見て糖尿病が怖いと感じたのか、気になる方はぜひ。 近文香 筆

令和8年3月発行

発行所 新潟市中央区旭町通2番町746
新潟大学医学部保健学科
同窓会「南山会」
発行者 小林 進
印刷所 株式会社 DI Palette